

受賞報告

鍋倉咲希

「観光的つながり」に関する社会学的研究

—東南アジアの日本人ゲストハウスにおける交流を事例に

講評

本発表は、東南アジアを旅する日本人バックパッカーが日本人ゲストハウスにおいてどのような「つながり」を形成し、それにはどのような社会的意味があるのかについて考察したものである。

これまでのバックパッカー研究においては、旅の途上で旅人が「つながる」あるいは「つながりたい」と欲望する背景には「自分さがし」や「承認欲求」があるとされてきた。しかし発表者の調査によれば、そのような目的のために「つながり」を欲するのではなく、他者との「出会い」を単純そのままに希求している旅人が存在するという。つまり、「つながる」ことが自己目的しているのだ。

しかもこの「つながり」は、旅という移動が大前提となる流動的な実戦であるから、きわめて一時的なものにすぎない。

では、現在の日本人バックパッカーは、どのようなモチベーションをもって一時的に過ぎない「つながり」を欲望するのであろうか。

発表者は、それを「出会い」「集い」「語る」というワードで分析する。つまり日本人宿で偶然「出会った」旅人たちが「集って」「語り合う」ことをとおして一時的・刹那的に「つながった」と実感することこそ、旅人たちは旅の価値を見出しているというのだ。一時的なつながりだからこそ、魅力的だというわけだ。

「深くて永続的な」つながりは求めないという旅人の指向性は、現代日本社会におけるバーチャル空間のつながりにきわめて近似しており、本発表は、現代社会の一側面（特に若者の心性）を鋭く暴き出している。

またこうした指摘は、従来の研究ではなされておらず、バックパッカー研究（ツーリズム研究）に部分的な貢献を果たすものであり、高く評価できる。

今後は、さらに研究を進めて、こうした他者との「つながり」を欲望するのは日本人バックパッカーだけの特徴なのか、それとも他のバックパッカーも同様の傾向をみせるのかという点にも挑戦してもらいたい。

以上の理由から、本発表に優秀賞を授与する。